

報告事項

第1号 平成30年度事業報告について

1. 平成30年度優秀業績の表彰

平成30年度優秀業績については慎重に検討された結果、

三嶋 廣繁 氏 (愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学)

「Association of the *exoU* genotype with a multidrug non-susceptible phenotype and mRNA expressions of resistance genes in *Pseudomonas aeruginosa*」

(Journal of Infection and Chemotherapy 2018 Vol.24, No.1 p45-52)

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

齊藤 信夫 氏 (長崎大学熱帯医学研究所)

「Dose-Dependent Negative Effects of Prior Multiple Vaccinations against Influenza A and Influenza B among School Children: A Study of Kamigoto Island in Japan during the 2011/12, 2012/13 and 2013/14 Influenza Seasons」

(Clinical Infectious Diseases 2018 Vol.67, No.6 p897-904)

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

また、第93回日本感染症学会会長表彰は以下の4名となった。

坪井 基行 氏 (London School of Hygiene & Tropical Medicine)

Usefulness of automated latex turbidimetric rapid plasma regain test for diagnosis and evaluation of treatment response in syphilis in comparison with manual card test: a prospective cohort study

(Journal of Clinical Microbiology 2018 Vol.56 Issue e01003-18)

長岡 健太郎 氏 (北海道大学呼吸器内科学分野)

Effects of anaerobic culturing on pathogenicity and virulence-related gene-expression in pneumococcal pneumonia (The Journal of Infectious Diseases 2018)

山藤 栄一郎 氏 (長崎大学熱帯医学研究所)

Distinguishing Japanese spotted fever and scrub typhus, central Japan, 2004-2015

(Emerging Infectious Diseases 2018 No.9)

南宮 湖 氏 (慶應義塾大学医学部呼吸器内科)

Clarithromycin expands CD11b+Gr-1+cells via the STAT3/Bv8 axis to ameliorate lethal endotoxin shock and post-influenza bacterial pneumonia (PLOS Pathogens 2018)

2. 講演会

平成30年5月31日～6月2日、岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館、岡山シティミュージアム、ひかりの広場において第92回学術講演会を門田淳一会長のもとで開催した。(第66回日本化学療法学会総会、尾内一信会長と合同開催)

参加人数：4,004人 (①医師・一般：3,770名(海外含：中国51名) ②学生・留学生：123名 ③招待者：111名)

招請講演1題、特別講演1題、特別企画2題、教育講演15題、シンポジウム16題、ワークショップ4題、

事業・委員会報告3題、抗菌薬適正使用生涯教育セミナー1題、症例から学ぶ感染症セミナー1題、

特別枠 (IDES) 養成プログラムの紹介、一般演題：718題 (口演：396題、ポスター：322題)

3. 雑誌刊行

1) 感染症学雑誌

第92巻1号より逐次刊行した。

地方会学術集会プログラムを掲載した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy

Vol.24, No.1より逐次刊行した。

インパクトファクター：1.777

JIC Award 2018 (Vol.24 p802-6)

Toshiya Kimura, *et al.* Department of Microbiology, Ehime Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science

Seroprevalence of severe fever with thrombocytopenia syndrome (SFTS) virus antibodies in humans and animals in Ehime prefecture, Japan, an endemic region of SFTS.

4. 地方会

・第67回東日本地方会学術集会は、平成30年10月24日～10月26日の3日間、吉田正樹会長のもとで第65回日本化学療法学会東日本支部総会 (川名明彦会長) と合同で東京都・東京ドームホテルで行われた。

特別講演2題、教育講演11題、シンポジウム18題、ジョイントシンポジウム1題、新薬シンポジウム1題、

ベーシックレクチャー12題、抗菌薬適正使用生涯教育セミナー1題、感染症セミナー1題、抗微生物薬適正使用推進

検討委員会報告1題、教育セミナー14題、ICD講習会1題

一般演題214題 (感染症：170題、化療：44題)

参加人数 1732名

- ・第 61 回中日本地方会学術集会は山本新吾会長のもとで、第 88 回西日本地方会学術集会は西順一郎会長のもとで平成 30 年 11 月 16 日～18 日の 3 日間、第 66 回日本化学療法学会西日本支部総会（森田邦彦会長）と合同開催で鹿児島県・鹿児島市で行われた。

特別講演 3 題、教育講演 13 題、シンポジウム 7 題、スポンサードシンポジウム 1 題、パネルディスカッション 1 題、日本環境感染学会合同シンポジウム 1 題、抗微生物薬適正使用推進検討委員会報告 1 題、男女共同参画推進委員会報告 1 題、抗菌薬適正使用生涯教育セミナー 1 題、ベーシックセミナー 1 題、感染症セミナー 1 題、教育セミナー 16 題、ICD 講習会 1 題

一般演題 340 題（中日本：80 題、西日本：172 題、西日本化療：88 題）

参加人数 1281 名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習内容

- ① 特定機能病院の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会
 1. 院内感染関連微生物（耐性菌）
 2. 院内感染対策における大規模医療機関の役割
 3. 院内感染における行政との連携
 4. アウトブレイクとその対応
 5. 院内感染の経路とその対策
 6. 医療従事者ワクチン接種と職業感染対策、接触者（インフルエンザ、結核など）への対応
 7. 滅菌・消毒（内視鏡も含む）、環境ラウンドのポイント
 8. デバイス関連感染症予防対策
 9. 微生物検査の実際（染色・培養・迅速検査・MALDI TOF-MS・その他の遺伝子検査）
 10. 手術部位感染対策
 11. 抗菌薬の適正使用（TDM も含む）
 12. 感染症サーベイランス
 13. 院内感染関連法令
 14. 総合討論
- ② 院内感染対策に関して地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会
 1. 院内感染の基本
 2. 院内感染対策の組織的取り組み
 3. 院内感染の経路とその対策
 4. 院内環境整備
 5. 血液媒介感染と職業感染対策
 6. 院内感染関連微生物の特徴と国内外の状況
 7. 微生物検査法と感染症の診断
 8. 抗菌薬の適正使用
 9. 抗菌薬の PK/PD, TDM
 10. アウトブレイクとその対応
 11. 院内感染対策の地域および行政との連携（災害時の感染対策も含む）
 12. 院内感染関連法令
 13. 総合討論
- ③ ②の受講対象となる医療機関と連携し、地域における各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会
 1. 院内感染とその対策（1）（滅菌・消毒の基本、多職種連携）
 2. 院内感染とその対策（2）（環境ラウンド・環境整備、ICT とその役割、現場教育）
 3. 院内感染関連微生物とその検査法・注意点
 4. 感染症治療薬の使用法と留意点（適正使用含む）
 5. 院内感染経路と経路別対策（1）（インフルエンザ、結核、麻疹、風疹などを含む）
 6. 院内感染経路と経路別対策（2）（内視鏡、デバイス関連感染）
 7. 血液（体液）媒介感染症と職業感染対策
 8. 療養病床・慢性期医療と感染制御
 9. アウトブレイクとその対応・対策
 10. 院内感染対策と地域連携、地域協力
 11. 院外から病原体をもちこまないためには（海外の情報をふくめて）
 12. 院内感染における医療機関・行政の連携
 13. 院内感染と法律（院内感染関連法令）
 14. 総合討論

2) 講習場所、期間及び人員

- ①. 特定機能病院の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

神戸国際会議場 国際会議場	平成 31 年 1 月 11 日、12 日	113 名
---------------	-----------------------	-------

- ②. 院内感染対策に関して地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

有楽町朝日ホール	(医 師)	平成 31 年 1 月 28 日、29 日	66 名
	(看護師)	平成 31 年 1 月 28 日、29 日	168 名
	(薬剤師)	平成 31 年 1 月 28 日、29 日	93 名
	(臨床検査技師)	平成 31 年 1 月 28 日、29 日	68 名

神戸国際会議場メインホール	(医 師)	平成 31 年 1 月 11 日、12 日	75 名
	(看護師)	平成 31 年 1 月 11 日、12 日	120 名
	(薬剤師)	平成 31 年 1 月 11 日、12 日	98 名
	(臨床検査技師)	平成 31 年 1 月 11 日、12 日	77 名

③. ②の受講対象となる医療機関と連携し、地域における各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

札幌医科大学講堂	(医 師)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	14 名
	(歯科医師)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	2 名
	(看護師)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	104 名
	(薬剤師)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	27 名
	(臨床検査技師)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	23 名
	(その他)	平成 30 年 12 月 17 日、18 日	1 名
有楽町朝日ホール	(医 師)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	43 名
	(歯科医師)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	9 名
	(看護師)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	272 名
	(薬剤師)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	82 名
	(臨床検査技師)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	74 名
	(その他)	平成 31 年 1 月 30 日、31 日	8 名
大阪府立国際会議場イベントホール	(医 師)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	51 名
	(歯科医師)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	5 名
	(看護師)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	210 名
	(薬剤師)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	60 名
	(臨床検査技師)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	74 名
	(その他)	平成 30 年 12 月 20 日、21 日	8 名
長崎ブリックホール 国際会議場	(医 師)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	38 名
	(歯科医師)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	3 名
	(看護師)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	153 名
	(薬剤師)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	50 名
	(臨床検査技師)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	38 名
	(その他)	平成 31 年 1 月 17 日、18 日	2 名
合 計			2229 名

6. 感染症専門医審議委員会

1) 感染症専門医試験合格者 90 名

芦澤 信之	阿部信次郎	天野雄一郎	安藤 孝浩	井口 成一	伊熊 素子	池崎 裕昭	石丸 直人	(敬称略)
市川 元司	出浦 弦	伊東 直哉	伊藤 浩	伊藤 亮太	妹川 史朗	岩田 暁	上村 剛大	
薄田 大輔	梅木 健二	海老沢 馨	大島 一浩	大重 和樹	小笠原 卓	岡部 太郎	岡本 翔一	
香川 大樹	柿内 聡志	片浪 雄一	片山 充哉	河合 暦美	川田 一郎	菊池健太郎	木内 英	
木下 典子	小出 竜雄	小林 勇仁	迫田 頼武	佐分利益徳	芝田 明和	嶋崎 鉄兵	清水 彰彦	
鈴木 啓之	妹尾 和憲	関川 喜之	関谷 綾子	高橋 健介	高谷 紗帆	武内 俊	田中 弦一	
田中 雅之	谷山 大輔	月森 彩加	津下 充	辻本 和徳	辻本 考平	辻本 直貴	津田 尚法	
筒井 健介	坪井 基行	富田ゆうか	豊嶋 弘一	鳥居 ゆか	永坂 敦	長澤 耕男	中瀧恵実子	
鍋谷大二郎	並川 浩己	西沢 知剛	橋本 武博	林 晋太郎	平位 暢康	藤井 洋輔	藤倉 裕之	
藤田 裕晃	堀場 千尋	前野 努	牧野 英記	水澤 昌子	村井 謙治	本林 光雄	森岡慎一郎	
森村 歩	山口 勇人	山口 普史	山口 裕崇	山崎 洋平	山本 健人	山領 豪	湯川 理己	
米本 仁史	鷺野 巧弥							

2) 更新者 294 名

平成 31 年 1 月 1 日現在専門医数 1500 名

3) 指導医 55 名

4) 感染症専門医認定研修施設 311 施設 (ホームページ参照)

5) 感染症サマースクール 2018

平成 30 年 8 月 3 日 (金) ~ 4 日 (土) 品川プリンスホテル

参加者: 67 名

6) 感染症ベーシックスクール

北海道・東北 2018.8.4-5 京王プラザホテル札幌 17 名

関東・甲信越 2018.12.15-16 東邦大学 21 名

東海・北陸 2018.8.18-19 岐阜市じゅうろくプラザ 28 名

関西 2018.7.7-8 奈良パークホテル 26 名

中国・四国 2018.9.22-23 愛媛大学・たかのこのホテル 16 名

九州・沖縄 2018.11.23 長崎大学 31 名

7) HP にて感染症アトラスを公開した。

8) 新専門医制度移行に向け、内科学会が開発した症例登録システム J-Osler (サブスペ版) を利用することとした。

7. インフルエンザ委員会
- 1) (statement) 「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬について」を2018年10月11日にHPにて公開した。
「Cap-dependent endonuclease inhibitor Baloxavir marboxil (Xofluza®)」として英語版も2018年12月19日に公開した。
8. 感染症遺伝子検査委員会
- 1) 日本臨床微生物学会と合同で「多項目遺伝子関連検査の実施指針」を公表した。
 - 2) 感染症遺伝子検査についてのアンケート調査結果を公開した。
9. 臨床研究促進委員会
- 1) 第1回日本感染症学会臨床研究促進助成(平成30年度)
受賞者: 賀来 敬仁 氏(長崎大学病院)
研究課題: 市中感染型MRSA菌血症についての全国サーベイランス
 - 2) ワークショップ開催
第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同学会
ワークショップ: あなたの日常診療を科学にしよう
Accepted Paper Session - 臨床研究の着想から論文アクセプトまで成功体験を共有する -
 - 3) Institut Merieux Young Investigator Awards(若手研究者賞)
受賞者: 本田 仁 氏(東京都立多摩総合医療センター救急科感染対策室)
10. 学際化国際化委員会
- 1) 学際化
 - ・プライマリ・ケア連合学会との共催セミナー開催
 - ・Japan Sepsis Allianceに学会として参加(日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本感染症学会)
 - 2) 国際化
 - ・IDSAおよびESCMIDとの覚書締結
 - ・第92回日本感染症学会学術講演会・第66回日本化学療法学会総会 合同学会
招請講演1(IDSAジョイント企画)、シンポジウム5(JAID/JSC and ESCMID Joint Symposium)
 - ・18th International Congress on Infectious Diseases (18th ICID) 参加
11. ワクチン委員会
- 1) 肺炎球菌ワクチンの接種体制に関する学会としての考え方を、厚生労働省健康局健康課および医薬・生活衛生局医薬品審査管理課に日本呼吸器学会と合同で2018年12月11日に提出した。
 - 2) “風疹ゼロ”プロジェクトに賛同した。
12. 男女共同参画推進委員会
- 1) 医師を対象とするアンケート調査を行なった。結果については各地方会にて報告した。
 - 2) 缶バッヂプロジェクトを立ち上げ、会員からデザインを公募した。
優秀賞 大西 卓磨 氏(国立病院機構埼玉病院 小児科)
13. 他学会合同事業
- 1) 「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン」男性尿道炎とその関連疾患を両学会誌に掲載。(日本化学療法学会合同)
 - 2) 「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」を発行した。(日本化学療法学会合同)
 - 3) プレイクポイントの臨床応用を考える①フルオロキノロン剤(日本化学療法学会・日本臨床微生物学会合同)
 - 4) 7月28日(土)に東京慈恵会医科大学新橋校 2号館 1階 講堂において合同セミナー「抗菌薬適正使用チームの普及を目指して」を開催した。(参加人数: 295名)
(日本化学療法学会、日本臨床微生物学会、日本環境観戦学会合同)
 - 5) 10月28日(日)イイノホール&カンファレンスセンターにおいて「新型インフルエンザの診療と対策に関する研修」を日本呼吸器学会と共催して行った(主催: 厚生労働省)。プログラムについては厚生労働省HP参照。
 - 6) 小児感染症分離株における感受性サーベイランスを公開した。(日本化学療法学会、日本小児感染症学会合同)
英語版については、JICに掲載。
 - 7) 小児に対するキノロン薬の使用状況に関するアンケート調査成績を公開した。
(日本化学療法学会、日本小児感染症学会合同)
14. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会
第10回(2018年) 歯科・口腔外科領域、SSI
15. ICD 制度協議会
新規認定者 144名 有資格者数 3,267名(当学会推薦)

※上記事業報告については、感染症学雑誌に掲載の議事録参照。

庶務報告

1. 会員数 正会員：10,985名 賛助会員：20件 平成31年2月28日現在
除名については該当者無し
2. 第92回日本感染症学会総会は平成30年4月21日、東京国際フォーラムにおいて行った。
3. 平成30年度評議員会は平成30年4月21日、東京国際フォーラムにおいて行った。
4. 理事会は4回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は3回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy 編集委員会は6回行った。
6. 学会賞選考委員会は1回行った。
7. 専門医審議会2回、専門医育成・教育部会会議1回、専門医試験委員会5回行った。
8. 学際化・国際化委員会は2回行った。
9. 臨床研究促進委員会は1回行った。
10. 遺伝子検査検討委員会は1回行った。
11. 男女共同参画推進委員会は1回行った。
12. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会は2回行った。
13. 四学会理事長懇談会は1回行った。
14. 経理事務打合会は1回行った。